



第27回自動認識総合展を開催

2025年9月10日から12日まで、東京ビッグサイト西ホールで「第27回自動認識総合展」が開催され、併設のセミナーをあわせ会期中多くの来場者にご参加いただきました。



会報 JAISA 秋号 CONTENTS

第27回自動認識総合展特集

第27回自動認識総合展 P1

第27回自動認識システム大賞表彰式 P3

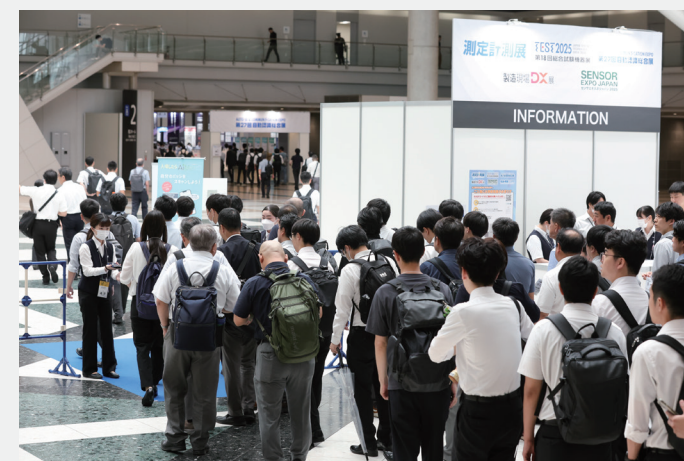
第27回自動認識総合展の気になる製品 P5

第27回自動認識総合展展示会アンケート P7

AUTO-IDトップランナーに聞く P8

展示会見学会AUTO-ID MeetUP P11

第22回自動認識総合展大阪ご案内 P12



第27回自動認識総合展



国内唯一の自動認識技術・ソリューションの専門展

第27回自動認識総合展が2025年9月10日（水）から12日（金）まで東京ビッグサイト西ホールで開催されました。

本展示会は「未来をつなぐAUTO-ID」をスローガンに、最新の自動認識技術とソリューションを一堂に会し、昨年新設された画像認識×AIゾーンを加えた国内唯一の自動認識専門展示会として、広く国内・海外からの来場者を集め盛大に開催されました。

本年の自動認識総合展は、東京ビッグサイト西ホールで行われた、測定計測展、TEST2025、センサエキスポジャパン、製造現場DX展などとの相互入場を実施し、合同開催となりました。

自動認識総合展の会場入口には事例でわかる自動認識（出展社の事例パネル）を設置し、業種別の自動認識による課題解決とDX導入事例が来場者の関心を集めていました。

展示会初日には開会式が行われ、来賓を代表して経済産業省産業機械課課長須賀千鶴様から祝辞をいただき、本展示会と併設される各展示会主催者様とともにテープカットが行われました。

本展示会主催のJAISA代表理事会長柴谷浩毅は「近年、カーボンニュートラルの実現や人手不足の解消など、社会課題への対応で生活環境や経済活動が大きく変革する中、本合同展示会には、デジタル化を促進しDXの基盤技術としてその変革を支える様々な分野の新技术やノウハウが集結している」として、出展各社の展示製品・ソリューションとともに併設のセミナーは「来場者の課題解決につながる有益な情報を提供する3日間」である旨、挨拶を行いました。

合同展示会開催規模は、304社・団体で528小間、来場者は39,934人（3日間総合計、相互入場含む）でした。

AUTO-ID & COMMUNICATION EXPO 第27回 自動認識総合展

A BRIGHTER FUTURE WITH AUTO-ID

未来をつなぐ AUTO-ID



経済産業省
経済産業局 産業機械課 課長
須賀 千鶴 様



（一社）日本自動認識システム協会
代表理事会長
柴谷 浩毅



開会式 来賓のテープカット

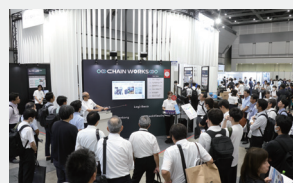
自動認識総合展の併設展示会

測定計測展：自動車、ロボット、航空機関連に使用される光学・精密測定など、測量全般に関する総合展示会。

TEST2025（総合試験機器展）：材料試験、環境試験と計測、評価に関する国内唯一の総合展示会。

センサエキスポジャパン：センサをはじめ電子部品やデバイス・完成品や実装装置など、センサ・センシングに関わる先進的な製品・技術・情報が集まる展示会。

製造現場DX展：製造業の現場業務におけるデジタル化、製造業に必要なDXに関連するシステムやサービスを紹介する展示会。



BT Spice 自動認識セミナー

合同基調講演

【トランプ関税に揺れる世界日本（製造業）の生存戦略】

米国のトランプ大統領による関税政策が世界を揺るがせています。日本の製造業にはこの荒波の中をどのように生き抜いていくべきか。最前線でトランプ政権を取材する特派員と処方箋を探る。

産経新聞ワシントン支局長 塩原 永久 氏
産経新聞東京本社編集局長 加納 宏幸 氏

自動認識セミナー

【補助金活用で進める自動認識技術導入と販売のポイント】

自動認識技術の導入や販売を進める中小企業・小規模事業者に向け、補助金制度の最新情報、申請の注意点、採択を得るための工夫、各種支援策の活用をわかりやすく丁寧に解説。

金子中小企業診断士事務所 代表 金子 典正 氏

【コンビニにおけるIoTとAIの最新の取り組みと未来】

年間162億人が買い物をするコンビニは、日本の個人消費や労働環境の写し鏡となる。国内の人口減による経済停滞や人手不足に対するコンビニの対応を学び日本の未来を考える。

（株）やらまいかマーケティング 代表取締役社長 渡辺 弘明 氏

【流通DXと自動認識技術】

少子高齢化・人口減少社会である日本における流通業の目指すべき方向性と、自動認識を含めたテクノロジーの活用。

（公財）流通経済研究所サプライチェーン部門
上席研究員 久保田 倫生 氏

【医療現場における医薬品の特殊符合は本当に活用されているのか】

医療医薬品には元梱、販売、調剤包装単位のほぼすべてにバーコード等が付されています。しかし、これらのバーコードが医療現場でいかに活用されているかは明確ではありません。

東京医療保険大学大学院 医療保険学研究所・臨床教授
折井 孝男 氏

【AI時代における薬局・薬剤師の在り方】

マイナ保険証・電子処方箋・在宅等、薬局を取り巻く環境は大きく変化しています。薬局には業務効率化・デジタル化が求められています。

ゲルテック（株） 代表取締役社長 バトエレデネ・ハタンボルド 氏
代表取締役CEO ムンフバータル・ガンムフン 氏

【SPRが創る、DXで拓く物流の未来】

ドライバー不足の課題解決に向け、RFIDのパレット個体管理、クラウド版物流管理ツールで資材の見える化と効率化を実現。

三甲パレットレンタル（株） IoTソリューション推進部部長
金川 賢一朗 氏

【金属対応RFIDで実現する軽仮設機材レンタル業のDX事例】

軽仮設機材レンタル業の紙帳票での作業時間と人的ミスの課題に対し、RFID機材システムの導入でペーパーレス化、作業時間短縮、ミス低減などを実現した、DXの成功事例を解説。

（株）アクトワンヤマイチ 執行役員 岡田 正志 氏
（株）DNPデジタルソリューションズ 課長 藤田 陽介 氏



【EPCとは？RFIDを使う前に知っていただきたいこと】

GS1という国際組織では、世界でユニークにモノを識別し、その情報を共有するための国際ルールを作っています。RFIDに利用できるGS1標準の識別コードEPCの仕組みとその重要性を解説。

GS1Japan（（一財）流通システム開発センター）
ソリューション第1部RFID・デジタル化推進グループ グループ長
前川 ふみ 氏

【RFIDユーザのためのRFID活用ガイドライン】

はじめてRFIDシステムを導入するユーザ企業に向けて、基本的な導入プロセスフローに沿って、注意すべきポイントを解説。

（一社）日本自動認識システム協会RFID部会
アプリケーション技術グループ 竹本 直也 氏／清水 博長 氏

【電池なし無線センシング向け／IEC 18000-65標準化推進】

様々なセンサの設定、逐次データ取得、世界初1KHz級サンプリングによるデータストリーミングを可能とする日本初の標準技術ISO/IEC 18000-65プロトコルを解説するとともに、試作システムおよび実証実験例を紹介。

慶應義塾大学 環境情報学部教授、Auto-IDラボラトリ所長
三次 仁 氏

【医療材料管理におけるRFID技術活用】

医療資材管理へのRFID活用が注目されています。医療機器トレサビの課題やRFID導入効果など、業務改革のヒントを提供。

（株）エフエスユニマネジメント 企画本部 部長 高橋 直角 氏
（株）デンソーウェーブ プロジェクト推進室 室長 真野 靖章 氏

【AIエージェントによる製造関連業務の改革】

「数学で課題を解決する」をミッションとして、品質管理や安心安全支援の事例から、製造関連業務変革の可能性を見出す。

Arithmer（株） 製造AI事業部 伊達木 啓 氏

【ワールドモデルの実装検討】

ワールドモデルと呼ばれるAIを用いて、データ駆動で実世界における動作を最適化し、人とAIがともに成長する「Human in the Loop」の実現を目指す。現在の進捗状況を発表。

（株）ABEJA デジタルプラットフォーム事業2部
グループマネージャー 工藤 達矢 氏

【事例紹介AI音声認識で成果を出した企業 導入の決め手】

製造現場の音声認識活用事例を紹介。ハンズフリー・ペーパーレスでのダイレクト帳票入力による業務効率化の解説。

（株）アドバンスト・メディア SDX事業部
シニアセールスマネージャー 小泉 立央 氏

【AIエージェントの現在地と法人環境でのLLM／RAG活用】

AIアシスタント/AIエージェントの構築とRAG技術やLLM追加学習技術をオンプレミス環境で提供。

（株）neoAI 代表取締役CEO 千葉 駿介 氏

第27回自動認識システム大賞表彰式

自動認識システム大賞とは

自動認識システム大賞は、先進的かつ導入効果が極めて顕著な自動認識技術やシステムを表彰するもの。国内で実用される（または実用の
目途が立っている）事例を有する国内の企業、団体、個人で、当協会の会員・非会員を問わず応募していただけます。

【第27回 自動認識システム大賞 受賞一覧】

	受賞作品タイトル	応募企業	基礎技術
大賞	ドローンを使ったAIによるタイル浮きの自動判定システム	(株)竹中工務店	画像認識
優秀賞	決済やポイント獲得、年齢確認、商品購入時の不正防止などが、手ぶらでできる生体認証サービス(SAKULaLa)を多様な業種に本格展開を開始	東武鉄道(株)、 (株)日立製作所	生体認証
優秀賞	温度センサー搭載RFIDタグを活用した産業機械設備向け保全管理ソリューション	TOPPANエッジ(株)、 日本精工(株)	RFID、 温度センサー
産経新聞社賞	コンクリート埋込RFタグを用いたプレキャスト製品トレーサビリティシステム	三井住友建設(株)、 KISCO(株)、(株)Uni Tag	RFID、GPS
特別賞	映像解析AIによる人手作業分析ソリューション	日本電気(株)	画像認識
入選	貿易DX:AIでHS判定 -世界最高精度で国際物流を革新	京極運輸商事(株)	OCR、画像認識
入選	RFタグ内蔵スマートデニムによる次世代ファッション情報基盤	(株)MILKBOTTLE SHAKERS、 (株)世界文化社、RICHRFID Japan Co.,Ltd.、(株)大和コンピューター	RFID
入選	RFIDで海外輸送用副資材を管理し、 税制優遇が受けられるシステム	(株)サトー	RFID、 二次元シンボル
入選	マイボトルを通じて行動変容を促し、環境保全に取り組むシステム「マイボトル利用促進プログラム」	(株)サトー (株)三菱UFJ 銀行	RFID
入選	「みつかるくん」-電子ラベルと自動認識技術を用いた店舗業務効率化・人手不足解消-	アイニックス(株) (株)多慶屋	バーコード、二次 元シンボル、NFC

※入選作品の掲載は、申込受付順です。

幅広い分野の自動化、省力化、効率化の課題解決に向けたソリューション

自動認識総合展初日の9月10日午後、展示場内のセミナー会場で第27回自動認識システム大賞表彰式が行われました。本年度は、大賞1作品、優秀賞2作品、産経新聞社賞1作品、入選5作品に加え、特別賞1作品が選出されました。表彰式の冒頭、JAISA柴谷会長は「ユーザーや社会の課題に向き合い、製造・物流・建設・鉄道・医療・流通など、幅広い分野の自動化、省力化、効率化の課題解決に向けたソリューションをご提案いただいた。自動認識技術に生成AIを組み合わせることで、DX化を効率的に推進する事例が増えている」と本年度の応募作品の傾向を

受賞作品

・大賞

受賞者：株式会社竹中工務店
受賞作：「ドローンを使ったAIによるタイル浮きの自動判定システム」

<評価ポイント>

- ・新規性、経済効果、品質、利便性、導入実績が最高得点。
- ・ドローン＋赤外線を使い、0.5mmの高さの浮きを認識でき、図面データと生成AIで、精度よく、浮いたタイルを見つけ出す。
- ・生成AIの活用で、日当たりや気温など認識精度の向上。
- ・建設現場で足場を組まず調査できる費用対効果・経済効果。
- ・人手不足の建設業界における社会的貢献度（影響度）。

【第27回自動認識システム大賞表彰審査委員】(敬称略)

審査委員長 齋藤 英雄	慶応義塾大学 教授
大森 洋平	経済産業省 製造産業局 産業機械課 課長補佐
林 祐二郎	総務省 電波部移動通信課 課長補佐
河合 龍一	産経新聞東京本社事業本部コン ベンション事業部 部長
浅野 耕児	GS1 Japan 理事
荒木 勉	上智大学 名誉教授
市野 将嗣	電気通信大学 大学院情報理工学研究科 准教授
笹原 美徳	一般社団法人 日本自動認識システム協会理事
相良 隆義	一般社団法人 日本自動認識システム協会 理事
佐藤 誠	一般社団法人 日本自動認識システム協会専務理事 自動認識システム大賞予選審査会 委員長



システム大賞受賞者

・優秀賞

受賞者：東武鉄道株式会社
：株式会社日立製作所
受賞作：「決済やポイント獲得、年齢確認、商品購入時の不正防止などが、手ぶらでできる生体認証サービス(SAKULa-La)を多様な業種に本格展開を開始」

<評価ポイント>

- ・社会的利便性、導入実績が高く評価された。
- ・本サービスに参画する企業は、安全・効率的に生体認証データが共有でき、利便性が高い。
- ・スーパー、飲食店、専門店、家電量販店、ホテルなどが、手ぶらで決済可能。
- ・お酒やたばこなどの年齢確認がセルフレジで可能で決済時間短縮につながり、利用継続率76％。

・優秀賞

受賞者：TOPPANエッジ株式会社
：日本精工株式会社
受賞作：「温度センサー搭載RFIDタグを活用した産業機械設備向け保全管理ソリューション」

<評価ポイント>

- ・市場性、企画性、経済性、導入実績で高評価。
- ・人手不足の工場設備では、ニーズが高いと判断された。
- ・日本精工の経験値が生成AIにプラスされ、異常検知精度が高いと判断された。
- ・ベアリングに絡んだ検知だけでなく、さらに市場を広めるとの期待値が高かった。

自動認識システム大賞プレス説明会

・自動認識システム大賞表彰式会場でプレス説明会

自動認識システム大賞表彰式同日、マスコミ関係者にお集まりいただきプレス説明会を実施し、本年度の受賞作品の概要と応募作品の傾向などがいち早く披露されました。はじめに柴谷JAISA会長が自動認識システム大賞について、また大賞1件、優秀賞2件、社会的貢献度と環境的貢献度に優れた作品を産経新聞社賞に、そして企画の新規性および社会的価値が顕著であるという要件を満たした特別賞、ほか入選5件の内訳を発表しました。続いて、佐藤JAISA専務理事から各賞受賞と審査の経緯、受賞にいたる評価のポイントなどの報告を行いました。「自動認識技術は、AI普及に欠かせない技術であり、本制度を通じて自動認識技術を活用したシステム事例を多くの方々にご覧いただくことで、人手不足への対応やDX促進など、社会と各企業が取り組んでいる自動化、効率化に寄与することを願う」と本システム大賞の開催意義を強調しました。質疑応答では、自動認識技術とAIの関係性や自動認識の今後の市場について、ほかさまざまな質問がありました。

・産経新聞社賞

受賞者：三井住友建設株式会社
：KISCO株式会社、株式会社Uni Tag
受賞作：「コンクリート埋込RFタグを用いたプレキャスト製品トレーサビリティシステム」

<評価ポイント>

- ・市場性、環境貢献度、経済効果で高評価。
- ・鉄筋に取り付ける方法に工夫があり、コンクリートに覆われても1mの距離で読み取りできる工夫があった。(RFタグを含まない従来品と比較して製品耐久性に支障ない事も確認済)
- ・プレキャストコンクリート(工場で製造するコンクリート製品)のSCM全体でのトレサビリティが考慮されている点が評価された。
- ・将来的に製造から品質確認、補修調査など、長期にわたる利用用途が可能となり、経済効果が高いと評価された。
- ・人手不足の建設業界のDX推進で経済効果が高い。

・特別賞

受賞者：日本電気株式会社
受賞作：「映像解析AIによる人手作業分析ソリューション」

<評価ポイント>

- ・技術、新規性、企画性、利便性で高評価。
- ・生成AIを利用し、「手指形状」+「部品・工具」の画像を学習し作業種別の分類を大幅に向上。
- ・短時間で効率よく認識モデルを生成する技術を開発した。
- ・NECグループの生産ラインで実証済みであり、精度が高い。



受賞者によるプレゼンテーション



授賞式

受賞者へのお祝いのご挨拶
JAISA 柴谷会長



質問に答えるJAISAの佐藤専務理事と柴谷会長



システム大賞プレス説明会

未来のAUTO-IDプロジェクトReport



第27回 自動認識総合展 の気になる製品

JAISAでは自動認識の普及・啓発を目的に、会員企業の有志をメンバーとして、未来のAUTO-IDプロジェクトを組織して、ワーキンググループ(WG)で活動しています。本誌では、第27回自動認識総合展で興味が湧いた「気になる製品」を広報WGメンバーの目線でご紹介します。

(掲載は出展者名五十音順)

においセンシング技術

NECプラットフォームズ株式会社

出展製品の概要

生活や業務におけるさまざまな匂いを可視化する技術。タバコ、芳香剤など、1つのセンサでさまざまな匂いを検知可能。また、匂いが混ざった「複合臭」にも対応しています。目に見えない「匂い」という、自動認識の新たな領域として注目しました。



今後の展開に期待すること

快適な住環境を構築するための活用はもちろん、ガスといった重大事故を引き起こす恐れがある気体を検知できるため、工場やプラント、工事現場などの安全を見守る技術として期待しています。また、複合臭の解析も可能なため、「異臭」などに対しても原因特定に活用できる可能性があると感じました。



最新ラベルプリンタ

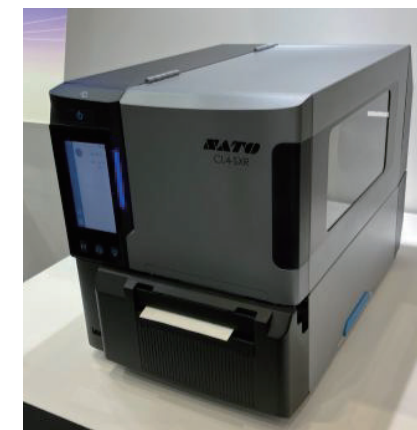
株式会社サトー

出展製品の概要

来年1月に発売予定のRFID対応ラベルプリンタを展示していた。従来機に比べ、ラベル印字性能・速度の向上と、内蔵の大型タッチパネルモニタでラベルの交換方法が動画で表示可能など、より使いやすく便利な製品となっていた。従来機から踏襲されるラベル1枚目から印刷できる機能は、ラベル単価が高いICタグの印字にとっても有用な機能で、非常に完成度の高い製品です。

今後の展開に期待すること

ラベルプリンタは20年前からほとんど機能は変わっておらず、ほぼ完成の域に達した製品であると思われるが、付加機能の追加・向上に留まらず、ラベルプリンタとしての基本的な印字精度や印刷速度の向上を今でも達成出来ていることに深い感銘を受けた。今後物流現場では一層の省人化・自動化が求められ、ラベルプリンタの活躍するフィールドは必ず拡大する。プリンタとしての基本機能向上を第一に据えるこの製品は、作業現場の効率向上に大きく寄与すると考えます。



Xmare [エクスマーレ]

株式会社デンソーウェーブ

出展製品の概要

新型情報携帯端末とマネジメントツール及び現場の改善提案からなる、デンソーウェーブの新ソリューション。小売・物流・製造など、各現場のスタッフがXnavis（通話、メール・チャットが可能な小型軽量デバイス）を所持し、リアルタイムな個々の業務データをマネジメントするXpharosにより、高効率、セキュリティな業務支援を行うもの。



今後の展開に期待すること

労働不足やコスト増加などの課題に対して、人とモノの動きをデータ化し課題改善に役立てる。スタッフ間のコミュニケーション促進と顧客満足の向上をはかる仕組みで、DXによる新たな価値を創造する同社の新しい提案であると感じました。



FISカフェが印象的な展示

オカベマーケティングシステム株式会社

出展製品の概要

毎年出展しているオカベマーケティングシステム(株)。これまではバーコード、RFID、OCRを中心とした展示を行ってきたそうですが、今年は(株)ソルベックスとマルティスブ(株)とのコラボレーションでFIS(固定式産業用スキャナー)、BLEビーコンにも注力した展示ブースづくりを行っていた。FISは今後、自動認識のトレンドになるとの思われ、ブース内に<FISカフェ>を設置し、じっくりとFISを体感できるようにドリンクを提供しながらご案内していたのが印象的。来場者に配布していたBLEビーコンをイメージしたビーコン飴も好評だったようです。



今後の展開に期待すること

FISは他社でも展示されており、同社のブースでも来場者がFISのデモを見ながら、様々な質問をしていたところから、今後需要が高まる自動認識の商材であることは間違いない。また、人と物の見える化を課題とする企業が多いようで、ビーコンの運用に関心を示す来場者が今年は非常に多かったそうです。



EPCIS2.0に対応した物流システム

TOPPANエッジ株式会社

出展製品の概要

RFIDの効率的な利用が期待される物流業向けに特化した物流管理システムであり、EPCIS2.0にも対応しています。EPCISは2.0になってから個々のEPCIS間での横連携が可能になったため、業界でひとつの大きなEPCISを持つのでは無く、各社が小さなEPCISを持ち、連携したいデータのみを共有する事が可能になった。今までの業界団体でのデータ連携における様々な課題(全てのデータを見せたくない、サーバの管理主体が曖昧など)を解決出来る仕組みです。

今後の展開に期待すること

物流・流通は経済の基盤であるにも関わらず、人手が多く掛かる業界でもある。このため今後の省人化や自動化のニーズは極めて高く、その実現のためには企業の壁を越えた情報共有が必要であると考えられる。EPCISは国際標準であり規格が公開されていることから、各社で用いているアプリのカスタマイズも容易であり、既に対応しているソリューションも多い。このため物流現場の効率向上に寄与する仕組みであると思われます。



第27回自動認識総合展アンケート

第27回自動認識総合展にご来場いただいた方々にアンケートにご協力いただきました。

来場目的やその動機、興味の対象や課題など、本展示会傾向を見ることができます。
また、自由回答では多くのご意見をいただきました。
本展示会は、来場者の半数以上が自動認識技術のユーザーで、興味の対象はRFID、バーコード、画像認識が

上位となりました。
また来場者の課題は、DX推進・最新技術の活用が最も多く、在庫管理や物流の効率化、そして人手不足・省人化の解決策を期待してのご来場も多い傾向となりました。

アンケート方法：来場者へのメールにより返信いただいた約500名の回答を数値化したもの

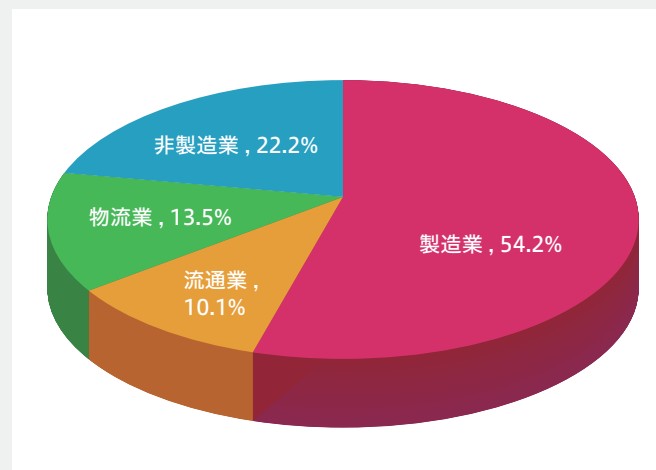
「自動認識総合展」へは
何回目のご来場ですか？

初めて	49.5%
2回目	13.5%
3回以上	37.0%

あなたは自動認識技術の
何に関連しますか？

ベンダー	25.3%
Sier	14.5%
ユーザ	51.2%
その他	9.1%

●業種(大分類)



ご興味のある分野は？(複数回答可)

バーコード製品・技術	48.8%
RFID製品・技術	78.8%
生体認証製品・技術	25.3%
カード製品・技術	9.8%
画像認識製品・技術	46.1%
センサネットワーク関連	13.5%
モバイル製品・技術	16.5%
ウェアラブル製品・技術	19.2%
その他製品・技術	4.0%
物流ソリューション	35.0%
流通ソリューション	16.2%
製造ソリューション	25.9%
セキュリティソリューション	9.4%
その他	3.7%

本展示会の全般的な満足度は？

満足	34.8%
やや満足	47.3%
やや不満	16.9%
不満	1.0%

出展者へのアンケートでは、出展目的は新規ユーザーの開拓、製品の販売が最も多く、その目的の達成度は期待以上5.4%、期待通り75.7%、期待以下18.9%の回答でした。
出展の具体的効果は、商談があった51.4%、会社・製品のPR効果があった51.4%、新規顧客が開拓できた43.2%との回答がありました。

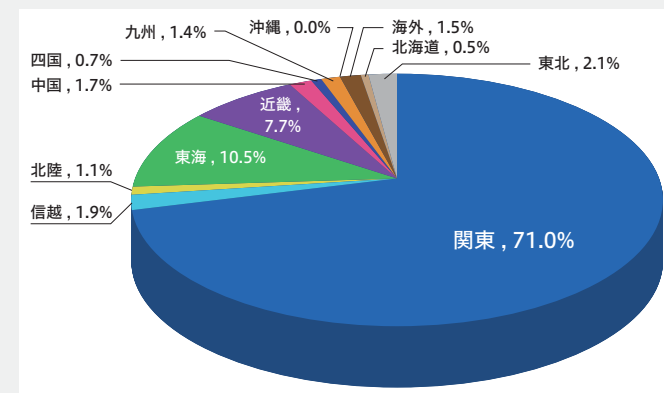
ご来場の目的は？(複数回答可)

実物を見てみたい	52.2%
製品・ソリューションの説明を聞くため	50.2%
具体的な商談のため	8.1%
問題解決する製品・ソリューションを求めて	37.4%
システム構築のヒントを求めて	25.6%
最新技術情報収集	67.0%
自動認識業界の動向調査のため	41.8%
セミナーに参加するため	4.4%
製品を探す・比較するため	4.0%
その他	1.3%

どんな課題を持って来場しましたか？(複数回答可)

人手不足・省人化	41.4%
在庫管理・物流効率化	45.5%
品質管理・トレーサビリティ	29.6%
DX推進・最新技術の活用	60.6%
導入効果の不透明さ	6.1%
コスト・競争力強化	12.5%
その他	8.8%

●来場者分布



AUTO-ID トップランナーに聞く

株式会社デンソーウェーブ

丹羽 教泰 様

QRコードを開発し世界にひろげた
デンソーウェーブ。今夏、携帯情報端末の
可能性を広げた新製品をリリース。
今回はチャレンジを続ける
同社のリーダーに登場いただきました。



— はじめに、ご入社される頃のお話から伺います。
入社の動機や学生時代のことなど。

丹羽 私は愛知県出身です。愛知県には大きくてとても綺麗なデンソーの事業所や製作所がいくつかあり、自宅の近くにも製作所がありました。
大学では、工学部・情報を専攻していました。その頃は、<ITS> (Intelligent Transport Systemsの略。高度道路交通システムの意)という言葉が流行っていて、大学院の時に某自動車メーカーとの共同研究で、カーナビゲーションの自然言語対応に取り組みました。当時のナビは地図を出すだけだったので、それをもっとインタラクティブにするような研究です。将来はこの分野が発達してデジタルな世の中になるんだろうな、と思っていました。
就職先としては、地元にあるかっこいい、革新的なイメージを持っていたデンソーを選びました。入社はデンソーウェーブが設立された2001年です。入社後、研修のあと配属が決まったら、その年の10月からデンソーウェーブができることになって。自動車をやるつもりで入社したら、デンソーウェーブができて、そこでバーコードをやるぞ、と聞いて。
<いいじゃん、面白そうだし>と思いました。(笑)

— ポジティブなんですね。
新社会人として、環境の変化は？

丹羽 フレンドリーに過ごしていた学生の研究室とは大きく異なって、思った以上の縦社会でしたね。上司の席に行く時にはちょっと緊張して、直立不動で<少し宜しい

でしょうか>みたいな感じで。上司はとても怖かったです。

— 入社後、どのような業務を担当されていたか。

丹羽 学生の時から、入社してからもプログラムをかいていましたが、社会人としてプログラムを作ることは今までと全く違うものだったんです。学生の時はロジックが動けばいいと思って作っていましたが、会社では如何にコストを抑えて儲かるものを作るというか、魅力的なものにすることなのですね。一つひとつの設計がすごくシビアにチェックしないと次に進めないから、「ここまで出来ました。これで宜しいでしょうか」と上司に聞く、相談することになるわけです。学生の時とはレベル感が違いすぎました。上司に持って行くと『エラー処理が不十分、これじゃダメ』と言われ「どうやるか教えてください」ということの繰り返しです。

— 開発の業務で印象に残っていることは？

丹羽 BHT(Barcode Handy Terminal。デンソーウェーブの主力製品)の組み込みソフトの開発からスタートして約11年開発部隊に居りました。
無線通信のソフトウェアの開発を担当していた時には、トラブルなどお客様の現場にはよく行きました。現場で起こる通信エラーは、何分に1回という定期的な間隔で起こるものでなく、数時間やる中で急に発生します。そこでデータを吸い上げてみても1回じゃわからず次を待つ。その後持ち帰って検討する。
後日対策としてログを仕込んだ製品を持参してお客様の

現場で再調査する。「すみません、すみません」と言いながらお客様の業務に立ち会ってトラブルの要因を潰していくわけです。お客様にはご協力いただきましたし、ご指導いただいたことも多いです。

— 答えは現場にある、ということは聞きますね。

丹羽 当社のよいところは技術者もお客様の所に行き、現場の声を聴いて、新しい機能を足して、「このようなものを作ったので試してください」と提案することができるとお客様から『こういうのだよ！待っていたの。』という声をいただくこともあり、自分の提案が製品になって喜んでいただけるのは嬉しいです。デンソーの理念に＜現地現物＞があり、事実を正しく把握し信頼を得ることです。

現地現物：問題解決のために、まず正しく現状を把握する。実際に現地に足を運び現物を確認し、その現象の奥にある真因を追求して的確なアクションに結びつける。この現地現物主義の実践こそ、デンソーグループにおけるあらゆる仕事の基本。

— 開発の後はどちらの部署に異動されましたか。

丹羽 商品企画です。BHT-1300というハンディターミナルの主力モデルの企画に携わりました。この製品が出来上がるまでお客様の所にも数えきれないくらい行きましたし、社内でも営業とぶつかり、開発にも無理を言い、とにかく、こだわりが多い製品です。

— 御社のヒット商品ですね。このプロジェクトのリーダーとして、どこにこだわったのですか。

丹羽 当時市場で売っていた製品をターゲットにして、新製品は小型・軽量・操作性・堅牢性にこだわり、1mmでも小さく、1gでも軽く。またカラーも本体側面のスイッチを赤から青*注1に変え、下部の4つのボタンも*注2隣の色と識別しやすい色を選びました。そして持ち手部分は面取りして握りやすく改良しました。

注1：客先では赤が非常時に使用するスイッチの色でネガティブなイメージがあった。青にしたのは交通標識の青と同色で安全をイメージ。
注2：色弱の方でも隣色を区別しやすい配色を選定。ユニバーサルデザインを考慮した。



堅牢面では、公表できないような動画も作りました。*注3
営業はこの動画をケータイに入れてこそっとお客様にお見せしていたようです。(笑)

注3：(試作機を)車に轢かせる、高いところから落とす、水につける、など衝撃に強いことをアピール。

新製品プロジェクトのコンセプトは＜DK＞。社内だから通じるわかりやすい合言葉を決めたことで各部署がまとまって行ったと感じます。企画段階では皆がぶつかりながら試行錯誤して、完成に近づくにつれ連帯感が生まれ＜これを売るぞ＞という機運を実感しました。



インタビューはデンソーウェーブ東京支社の新オフィスで

— 社内をまとめるための共通言語はよいアイデアですね。その後RFIDに関係されていますね。

丹羽 商品企画の次に、東京を拠点にRFIDの営業をしておりました。

— 会社としてもRFIDを重視されていたのですか。

丹羽 アパレル業界のお客様が導入を検討される時期で、当社の製品をよくお使いいただいていたから。なかでも、ある大手企業が検討を始めた時、初回の打ち合わせから参加して、“RFIDとは“ということをお話した覚えがあります。業界では当時、同社のRFID導入には懐疑的で、1枚300円の商品もあるからRFタグは付けられないだろうと。RFIDを使うという方向性が出てから導入までの動きは早かったです。新しい運用をテストする時など、私も開店前の朝5時から店舗での棚卸テストに立ち会ったりしていました。そこが導入に至ったことは、当社にも、また業界やRFIDの市場にも追い風になった、と言えると思います。

— ここで、次代を担う若手の社員に向けたメッセージをいただきたいのですが。

丹羽 若手の皆さんはものわかりがよく、与えられた仕事に対して、過去のやり方を参考にしたり、先輩のアドバイスを聞きながら確実にやってくれます。これは良いことですが、ときに＜型にはまっている＞と感じてしまうこともあるんです。＜はみ出しちゃいけない＞という気持ちがあるのか、もっと自分勝手にやってもいいんじゃないかと思います。例えば、AIが好きで、いろいろ探って、我々が知らないうちに＜AIの機能を入れてみました！＞って言ってくれるみたいな驚きがあると嬉しいです。それと、私はお客様の現場で多くのことを学んできたので、若手も自分から外に行っているいろいろと見聞きしてくることが重要だと思います。行ってみると課題が見えて、解決策を共に考えることになり、悩んだり、失敗することもあります。チャレンジして成功する体験を重ねて欲しい。自分が関わった製品が世に出る、お客様に毎日使ってもらえることは、社会貢献でもあるし嬉しいことです。

— 最後に、自動認識市場のこれからについて。

丹羽 自動認識市場はこれから、もっと面白くなると思っています。技術進化が多面で進んでいて、特に画像認識の分野は機能も精度も上がり、生体認証の分野もさまざまなベンダーさんが入ってきて活性化するでしょう。しかし、それぞれが個々に成り立つわけではなく、組合せだったり、どう使いこなすかという部分で知恵を出し合うことが必要になりますね。個人の行動や社会の変容でどんどん変わって行くものです。コンビニも無人化がずっと言われてきて、それが出来たら＜やっぱり店員がいた方がいい＞という意見もあり、行ったり来たりしながら画像や生体認証技術は進化して、新たな運用が必要になるので、ゴールがなく次々と新しいものが求められる面白味があるし、創って行ける市場だからもっと伸びていくと思います。その中で、デンソーウェーブはQRコードというアイデンティティがあるので、その価値観を大切にしながらこの市場に深く関わってまいります。



左から 丹羽さん、熊本さん、法月さん

今回の取材では、デンソーウェーブ法月さん (JAISA未来のAUTO-IDプロジェクト 広報グループリーダー)と JAISA熊本常務理事も同席してインタビューをサポートいただきました。



に わ みちひろ

丹羽 教泰

株式会社デンソーウェーブ
ソリューション事業部 事業部長

入 社：2001年
主 な 職 歴：ハンディターミナルのソフトウェア設計・開発
AUTO-ID商品企画、事業戦略企画を経て2025年9月から現職
趣 味：スポーツ観戦、昼呑み
モ ッ ト ー：何事にも前向きに、元気よく

PROFILE

学生・新社会人のための展示会見学

第6回AUTO-ID MeetUP

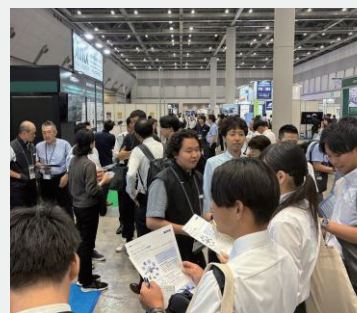
DXを推進し、社会生活の利便性向上に貢献する自動認識技術を体験する無料見学ツアー

少人数のグループで見学

第27回自動認識総合展会期2日目の9月11日(木)に、学生および新社会人を対象とした展示会見学ツアー「AUTO-ID MeetUP」を開催しました。AUTO-ID MeetUPは、少人数のグループで展示会出展社のブースを約90分で6～7社見学するもの。今年の参加者は就職を控えフィールドワークの一環として参加した大学生や自動認識企業への内定者、自動認識を広く吸収し他社動向も調査する新社会人など、参加者の背景や動機はさまざま。見学会は午前と午後で計4グループに分かれ、さまざまな出展製品を見学しました。



QRコードを開発した原昌宏さん(デンソーウェーブ)から、開発にまつわる多くのお話を伺うことができました。



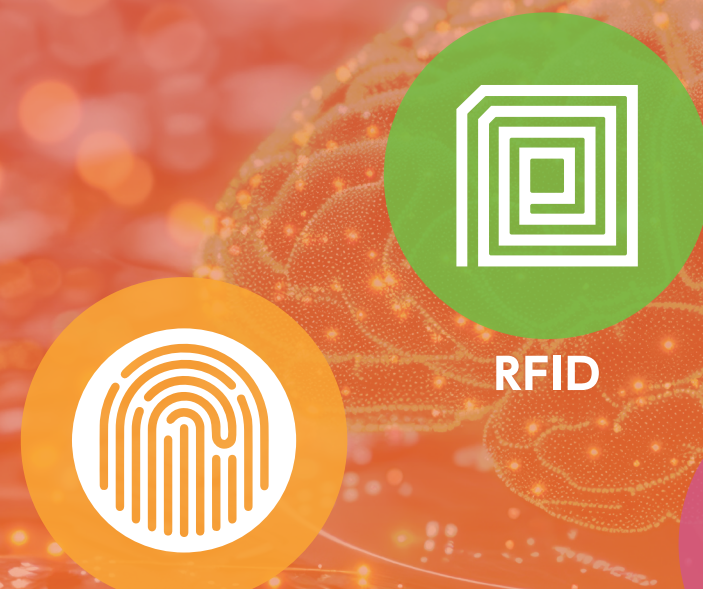
最新の自動認識技術と新製品

自動認識総合展の会場には、RFID、バーコード・QRコード、バイオメトリクス、画像、音声認識のほか、これらにAIなど新技術を組み込んだ製品やソリューションが展示されていました。見学にあたって今回も多くの出展社にご協力いただき、最新の自動認識ソリューションを見学・体験することができました。見学先では、展示会担当者や製品責任者の方々に展示品の特徴をわかりやすく丁寧に説明していただき、参加者は質問したりメモを取るなど、見学時間を有効に過ごしていました。参加者の多くは、RFIDの新たな用途、バイオメトリクスやおいセンシング技術など新しい分野に、驚きと関心を示していました。

【参加者の感想】(アンケートから抜粋)

参加の動機と目的	最も印象に残ったこと	自動認識総合展の感想
自動認識技術の知見を広め、他者の課題解決手段を自社でも活用するため	ヒトの動きを分析して、手順の間違いや時間の遅れなどが分かること。自社でも使いたい感じました	レーザーでのラベル書き換えやAIによる自動化など、最新の技術について学ぶことができ、大変有意義な時間でした
先端技術の導入事例に触れるため	リライタブル。昔見たリライトできる用紙とプリンタが製品になっていたことに感動した	自部署で活用できそうな技術がたくさんあり、非常に参考になりました
自動認識技術についての知見を深め、自部署で生かせそうなアイデアを収集するため	「おいセンシング技術」について、においの可視化という見たことのない技術でした	会社の方を紹介していただいたり、製品の基礎的な技術的の概要から教えていただきとても勉強になりました
初めて展示会を見学するため、展示場の回り方とRFIDを勉強するため	QRコードを開発した原さんのお話を聞くことができ、非常に貴重な時間でした	展示会は初めてでしたが、普段見れないものや、関われない方と話すことができ非常に充実した時間になりました
展示会が初めてだったので企業の紹介をしてもらい、若手でも質問しやすいと思ったから	RFIDやラベルプリンタについてとても勉強になった。生花へのRFID貼り付けで、データ書込から貼付、検証まで行っている点や、花を潰さずにラベルを貼るなど様々な技術が結集していること	RFIDや画像認識が様々な使われ方をしていると学ぶことが出来ました

AUTO-ID & COMMUNICATION EXPO 第22回 自動認識総合展 2026.2.19^{T H U}-20^{F R I} 10:00-17:00 マイドームおおさか 1F展示場 大阪



RFID



バーコード



生体認証



画像認識

A BRIGHTER FUTURE WITH AUTO-ID

未来をつなぐ AUTO-ID

入場無料

事前登録制

主催：一般社団法人日本自動認識システム協会

併催事業：BT Spice 自動認識セミナー

www.autoid-expo.com



公式サイトはこちら



JAISA
Japan Automatic Identification Systems Association

展示会事務局 (株)シー・エヌ・ティ 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-24-3-4F TEL. 03-5297-8855 FAX. 03-5294-0909 expo-osaka@autoid-expo.com